

「一しゅんで生活を変えてしまう土砂災害」

三豊市立桑山小学校 4年 田邊 悠太 さん

ぼくは、土砂災害について家族に聞きました。すると、香川県でも平成十六年の台風により土砂災害がおき、観音寺市の祖父の家でもひ害があったことを知りました。

そこで土砂災害について調べることにしました。土砂災害とは、大きなはかい力をもつ土砂が一しゅんにして多くの人命や家をうばってしまうおそろしい災害です。

次に土砂災害がどのように起こるかインターネットで調べてみました。土砂災害には、三つの主なげんいんがあります。一つ目は、土石流です。それは土砂が長雨や集中ごう雨などで下方へおし流されることです。二つ目は、がけくずれです。それは急なしゃ面が雨水のしんとうや地しんなどのえいきょうで突然くずれおちることです。三つ目は、地すべりです。それはゆるやかなしゃ面が地下水などのえいきょうで下方へい動することです。この三つの種類に分かれることを知りました。

実さいに台風での土石流によるひ害のあった祖父にインタビューしました。祖父の家は農家で山には何十年も前から育てている梨の木があります。

毎年、せんてい、人工受ふん、てきか、ふくろかけといった作業をしながら夏にはおいしい梨をたくさんしゅうかくしていました。しかし、平成十六年に上陸した台風の集中ごう雨を受け梨のある山が土石流により、一瞬でくずれおちました。台風のすぎさった後山へ行くと数日前とは変わり果てていた光けいに悲しみでいっぱいでした。そうした中でも地もとの農家の方々と協力し合って少しずつふっきゅうしたそうです。しかし、梨の木は流されてしまい、そこでの梨のしゅうかくは、できなくなりました。

このような話を聞き、一しゅんで生活を変えてしまう土砂災害のこわさをあらためて実感しました。

そうした中で土砂災害から身を守るには、「住んでいる場所がどのような地形か、どれくらいきけんかを調べる」「雨がふりだしたらけいかいけいほうに注意する」「けいほうがでたら早めにひなんする」ことが大切です。どこにひなんするかを知っておけば、自分の身を守れるし、家族とさい会しやすと思います。

最近のニュースでもどの県でどのような災害が起こったのか、何人の人たちがけがをしたりなくなったりしたのか知り、土砂災害は本当にこわいものだと思います。

土砂災害からひ害を少なくするために、どうすればよいのか。いつどこで起きるか分からない土砂災害。人にたよるのではなく、まず、自分たちでできることを考えていきたいです。そして、土砂災害のこわさを周りの人々にも伝え、もし、土砂災害が、おきそうな時には早めのひなんをよびかけ、少しでもひがいを少なくできたらと思います。